九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

20世紀前半カリフォルニア州における日系移民児童保護の研究

大森, 万理子

https://hdl.handle.net/2324/4059964

出版情報：Kyushu University, 2019, 博士（教育学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (3)

氏　　名	大森　万理子
論　文　名	20 世紀前半カリフォルニア州における日系移民児童保護の研究
論文調査委員	主　査　　九州大学 教授　　野々村淑子 副　査　　九州大学 教授　　木村　政伸 副　査　　九州大学 准教授　木村　拓也 副　査　　九州大学 准教授　江口　　潔 副　査　　九州大学 教授　　南　　博文

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、20 世紀前半のアメリカ、カリフォルニア州の児童保護事業が移民の子どもたちをめぐって展開された様相を、日系社会に着目し明らかにしたものである。行政と民間慈善諸団体が複合的に関係し家族の役割を規定しつつ推進された児童保護・救済の「保護複合体」については、その具体的検証が必要とされてきた。本研究は、州慈善矯正委員会の調査報告書等により州政府の移民政策を確認すると同時に、州政府によって認可された、日系人による慈善団体人道会と、アイルランド系カトリック宗教団体メリノール教会の日系児童保護の活動実態を精査したものである。州政府の知能検査結果に依拠した人種別・移民別保護の構想と、日米の二重の人間形成を重視した人道会、学校教育との連携を重視したメリノール教会の各々の事業の展開から、日系移民の子どもを対象とした「保護複合体」の内実を解明した。それにより、主として WASP の子どもを想定した従来のアメリカ児童保護史研究への批判的かつ独創的な貢献を果たしたといえる。

よって、本論文は博士（教育学）の学位に値するものと認める。